カリツーCSRレポート

2023

KARITSU

■企業理念

1．我々は社業を通し、良き企業市民としての良識をもって地域社会に貢献する。
2．我々は常に新しい価値の創造に努め最高の品質、最高のサービスをもって業界ナンバーワンを目指す。
3．我々は「企業は人なり」の信念のもとに、人間性を尊重し常に研鑽に励み自由でかつ達な社風づくりに努める。

■カリツーグループビジョン「Vision2030」

■中期計画

1．安全・品質・環境対応の強化
新センターや支援機器の活用および教育・訓練強化による安全・品質向上
2．組織の活性化
未来に向けた人材育成の強化
3．CASE 対応への基盤づくり
一般貨物事業、海外事業の積極的な拡大と早期自立

■2023 年度スローガン

変化、変動を乗り越え、夢のある未来へ！

すべてのステークホルダーの皆さまに「安心」と「信頼」を提供し、社員が「誇り」と「よろこび」を感じられる企業をめざします

すべてのステークホルダーの皆さまへ

私たちカリツー株式会社（旧社名:刈谷通運株式会社）は、1951 年（昭和 26 年）2 月の創業以来、半世紀以上にわたり地域の皆さまとともに歩み、おかげさまで 2023 年（令和 5 年）には創業 72 年を迎えることができました。

私たちは、企業理念に「我々は社業を通し、良き企業市民としての良識をもって地域社会に貢献する」をかかげ、ＣＳＲ経営を推進して参りました。

私たちの生活は、世界的な物価上昇や高まる地政学リスクの影響により、急激に変化が進んでいます。

先行きが見えない時代ですが、いかなる状況にも対応できるよう、勇気を待って限界に挑戦し、企業変革を推進することで、最高の安全・品質とサービスを提供してまいります。

この度、当社のＣＳＲに関わる取組みについて、2022 年度の活動を中心にまとめましたので、ＣＳＲレポートとしてご報告させて頂きます。

当社は今後も事業活動を通じたＣＳＲ活動に取組み、ステークホルダーの皆さまのご期待に応えられるよう努力して参りますので、ご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2023 年 6 月
カリツー株式会社
取締役社長　筒井　重式

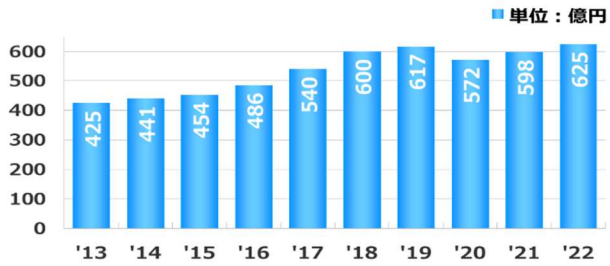
1．事業概要 （※1）

（1）会社概要

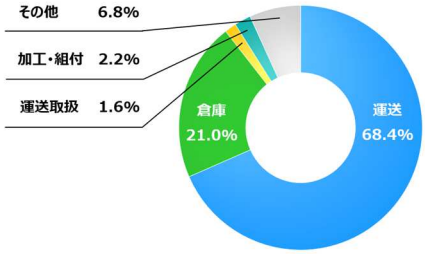
■社名	カリツー株式会社		
■本社所在地	〒446-8540 愛知県安城市三河安城町 1-4-4 TEL:0566-73-5600　FAX:0566-73-5606		
■創業	1951 年 2 月 28 日		
■資本金	75,000 千円		
■社員数	2,924 名		
■車両保有台数	1,738 台　＜内訳＞	■大型（5t 車以上）：765 台 (牽引:41 台 被牽引:23 台)	
		■小型（5t 車未満）：214 台	
		■フォークリフト：759 台	
■営業種目	■貨物自動車運送事業	■利用運送事業<JR 貨物>	■運送取次事業
	■倉庫業	■荷造包装業	■代行納入業
	■加工組付け業	■自家用自動車管理業	■不動産管理業
	■作業請負事業	■特定信書便事業	■貨物軽自動車運送事業
	■旅行業	■太陽光発電売電事業	■カリツー安全教育研修センター
	■通関業	■産業廃棄物収集運搬業	■損害保険代理業
■グループ会社	■光徳商事株式会社	■千幸開発株式会社	■光徳運輸株式会社
	■大和高速運輸株式会社	■刈通オートテクノ株式会社	■日豊高速運輸株式会社
■子会社	■カリツー東日本株式会社	■カリツー北海道株式会社	■カリツー九州株式会社

（2）企業データ

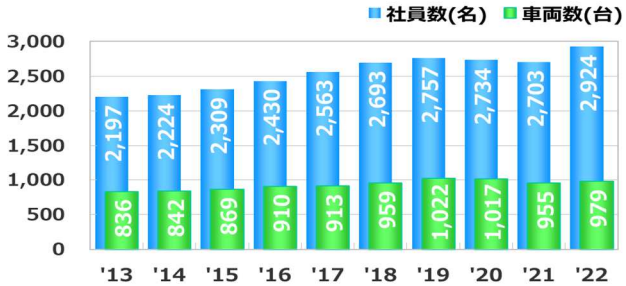
■売上高の推移（単独）



■売上高の構成



■社員数・車両数の推移



■倉庫面積

地域	倉庫面積（単位㎡）
愛知県内小計	350,949
北海道圏小計	4,755
関東圏小計	13,827
関西圏小計	4,295
中国圏小計	9,236
全社合計	383,062

※1　2023 年 3 月末時点

２．カリツーCSR レポート

カリツー株式会社に係わる全ての皆さまに、当社のＣＳＲ（企業の社会的責任）に対する姿勢と取組みについて理解を深めて頂くため、カリツーＣＳＲレポートを発行しております。
今年で 11 回目となります本レポートでは、2022 年度（2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）の活動についてご報告させて頂きます。

目　次

１．事業概要 ……3
２．カリツーCSR レポート ……4
３．ＣＳＲへの取組み ……5
４．安全・品質に係わる活動 ……6
５．カーボンニュートラル社会に向けた取組み（環境活動） …… 16
６．社会貢献 …… 24
７．マネジメントシステム…… 35

2022 年度主なトピックス

□営業拠点の開設

2023 年 2 月 1 日、名古屋市に名古屋オフィスを開設しました。

第 54 回全国トラックドライバーコンテスト

□第 54 回全国トラックドライバーコンテスト第 2 位入賞
ならびに国土交通大臣賞受賞

2022 年 10 月 22 日・23 日に第 54 回全国トラックドライバーコンテストが開催されました。
愛知県代表として、刈谷北営業所車両課の坪中選手が出場し、見事４トン部門第２位入賞ならびに国土交通大臣賞を受賞しました。

陸災防 安全衛生標語 最優秀賞受賞

□陸災防 安全衛生標語 最優秀賞受賞

陸災防主催の「令和 4 年度安全衛生標語」にて、カリツー東日本の石川所長が荷役部門「最優秀賞」を受賞しました。
11 月の陸災防全国大会にて表彰されました。

【荷役作業 省かず確認「作業手順」必ず実践「安全作業」】

３．ＣＳＲへの取組み

安全・品質の向上

労働災害・交通事故・製品事故の防止のため、安全に関する計画を立て実施しています。
品質の向上のため、教育訓練の実施など、力量の向上に取組んでいます。

○定期的な訓練の実施と定着確認

実際の作業環境を模した訓練道場などで、定期的な訓練に取組み、IT 端末を活用した現場巡視により定着状況を確認・共有しています。
また、トラック・フォークリフト大会の開催や出場を通して、一人ひとりの力量 UP に努めています。

○職場環境の整備

職場巡視などを通じて、職場環境の問題点を洗い出し、事故防止と働きやすい職場づくりを推進しています。

環境への配慮

燃費向上の取組み、環境にやさしい車両・設備の導入など、環境に配慮しています。

○燃費向上に向けた取組み

デジタコの特性診断機能の活用や、省エネ運転などの教育を通じて、燃費向上に取組んでいます。

○環境にやさしい機器の活用

低公害車や太陽光発電設備など、環境にやさしい機器を活用しています。

社会貢献

企業理念のもと、地域社会と関わる様々な活動を通して、良き企業市民を目指しています。

○地域の交通安全への取組み

拠点ごとの定期的な交通安全立ち番や、交通安全教室へのトラックの提供など、地域の交通安全活動に取組んでいます。

○社会貢献活動

震災被災地域への支援や、NPO や芸術・スポーツ団体への協賛などを行っています。

４．安全・品質に係わる活動

■新安全教育研修センターの活用

新安全教育研修センター

2021 年 1 月、旧西尾営業所跡地に新安全教育研修センターを設立しました。
実際の道路環境を再現したトラック訓練場を新設するとともに、フォークリフトの基本操作から過去のトラブル対策のルール、禁止事項の徹底および多様化する業務に対応できる教育訓練を実技・座学ともに導入しています。
協力会社を含めたオールカリツーでの安全品質向上を可能とする常に進化する教育研修センターを目指します。

座学

座学・実技訓練の強化

（１）座学
①大型スクリーンを使用した教育
②新人教育で基本ルールを教育
③水平・隣接確認の重要性を重点に教育

棚入れ訓練

（２）荷主製品・環境特性に特化した訓練
①鉄パレット（油漏れ）の訓練
②長爪の訓練
③棚入れ訓練

製品転倒体感訓練

ウォーキー訓練

交差点死角訓練

オーバーハング訓練

ホイールナットの弛み確認訓練

（３）フォークリフト基本・応用訓練

①事故対策のトラップ訓練
②隣接確認姿勢の教育（上下左右）
③隣接（奥）確認の教育
（見えない箇所の把握方法）
④ローラー投入、取出し訓練
⑤ウォーキー訓練
⑥ハンドリフト訓練
⑦製品転倒体感訓練（奥隣接）
⑧スロープ訓練
⑨バック搬送訓練
⑩シャッター通過訓練

（４）トラック実技訓練

①交差点進入方法、危険箇所の把握、
徐行、最徐行、一旦停止の教育
②死角の把握、死角を減らすための姿勢、行動教育
③障害壁を設置した交差点死角訓練
④接触ポールを設置したバック訓練、縦列駐車訓練
安全な後退方法と後方感覚を養う
⑤オーバーハング・リヤオーバーハング振出・死角訓練
トラックを使用し内輪差・死角等を認識する訓練

（５）トラック点検訓練

①ホイールナットの弛み確認訓練
②リアデフの油漏れ確認訓練

①目標達成に向けた取組み

■安全に関する計画

具体的な計画を立て実行し、継続的に取組んでいます。

安全に関する計画	
運行記録計（解析指導）	毎月
安全推進会議（各部署）	毎月
グループ会議	毎月
職長会	毎月
事故研修会	発生翌月
無事故無違反強調月間	年４回
無事故表彰	年４回
トラック運転技能大会	年１回
フォークリフト運転技能大会	年１回
全国交通安全運動参加	年４回

教育計画	
新入乗務員研修	都度
安全講習会	都度
事故発生者研修	都度
管理監督者研修	年１回

■無事故無違反強調月間

交通・製品事故ゼロを達成するため、年 ４ 回無事故無違反強調月間を設けて、全社を挙げた安全意識付けに取組んでいます。
月間では、車両への車幕の取付け、事業所の出入り口への立て看板とのぼり旗の設置を行い、社員は「安全宣言」バッジや腕章を着用して、現場パトロールを実施しました。
また、KIT によるパトロールの実施、不安全箇所・危険作業の撲滅、乗務員・技能員の心得理解度テストの実施、タイヤチェーンの点検と着脱の実施など、様々な事故防止活動が計画・実施されています。
新型コロナウイルスの感染防止に配慮して、進発式では WEB 会議を活用しました。

進発式

点呼

現場パトロール

■短期・長期無事故表彰

無事故表彰

毎年、無事故を達成したグループ・社員に対して、短期・長期の無事故表彰を行っています。
短期無事故表彰は、3 ヶ月間無事故・無災害を達成したグループに対し、長期無事故表彰は 3 年、10 年、20 年、30 年、38 年の間継続して無事故だった社員を表彰しています。
これにより、事故抑止目標の達成と社員の相互協力による安全意識の高揚を図っています。

■カリツー協力会管理者研修会への参加

2022 年 11 月 16 日、本社厚生棟にてカリツー協力会管理者研修会に参加しました。
外部よりお招きした講師の方が「心理学的視点から事故対策を考える」について講演され、改めて事故防止への意識を高める機会となりました。

■カリツーセーフティ・ラリーの開催

物流企業の社員として、社会の模範となる安全運転を実践することを目的に、2022 年 7 月から 12 月までの間にかけて、愛知県トラック協会主催の「トラック・セーフティ・ラリー（※1）」と連動させた「カリツーセーフティ・ラリー」を開催しました。
全社員が 5 名 1 組でチームを結成し、実施期間中の無事故・無違反の達成に向け取組みました。
今後も一人ひとりの取組みに関する意識を高め、全チームの達成に努めます。

項目	2022 年度
全チーム数	733 チーム
達成チーム数	664 チーム
達成率	90.59%

■正しい運転・明るい輸送運動への参加

交通・労働災害事故の防止、年末年始の輸送繁忙期における安全・安心な輸送サービス提供などを目的として、2022年11月から2023年1月にかけて、全日本トラック協会と各県のトラック協会共催の「正しい運転・明るい輸送運動」に参加しました。
各事業所において、「荷役作業時の安全確保の徹底」、「追突事故及び交差点における事故防止の徹底」、「輸送品質・サービスの向上」など、重点実施事項を定めて運動に取組みました。

※1　一定期間内の無事故・無違反を競い合うことによって、ドライバー、社員の交通安全意識を高め、チーム、事業所、支部内での事故、違反数の減少を図るとともに、愛知県内の交通事故死者数減少を目指す

■アルコール検知器によるアルコール検知の実施

物流企業の社員として、勤務の内外を問わず飲酒による事故や検挙者を絶対に発生させないように、乗務員のみならず全社員が出退勤時にアルコール検知を実施しています。
本社を含む全事業所にアルコール検知器を配備し、遠隔地で乗務を開始・終了する場合には、携帯型のアルコール検知器を使用して、確実に実施しているか記録しています。

アルコール検知器

記録管理画面

遠隔地用アルコール検知器

■サイドバンパーの導入

事故防止のため、トラック全車両助手席側の 1 軸と 2 軸の間に、サイドバンパーを導入しました。
車体横に取付けることにより、歩行者や自転車の進入を防止します。
当社と整備会社が共同で開発した特別仕様で、全ての対象車に取り付け済みです。
サイドバンパーによる進入予防措置とともに、道路交通法の順守を徹底するよう、教育を行っています。

サイドバンパー

■電子点呼システムの活用

大型ディスプレイにて出勤・点呼状況確認

当社では、日々の点呼において、自社で構築した電子点呼システムを活用しています。
事故やトラブルの展開や再発防止に向けた注意事項を、パソコンを使用した点呼時に各乗務員に確認させるなど、運行における法順守の徹底と乗務員の注意意識向上に向けて取組んでいます。

■フォークリフト用ドラレコの導入

ドラレコ映像による操作確認

製品事故防止のため、教育用のフォークリフトにドラレコを導入しました。
研修後に全員で映像を振り返り、危険な操作箇所を確認できるようになりました。
正しい操作を習得することで、事故防止に繋がります。

■IT を駆使したパトロールへの取組み

2021 年 2 月より、KIT（カリツーIT パトロールシステム）を導入しました。IT 端末を活用した現場巡視を行い、指差呼称などの実施状況について評価結果を社内で共有し、事故抑止に繋げています。

■ながらスマホ防止アプリの導入

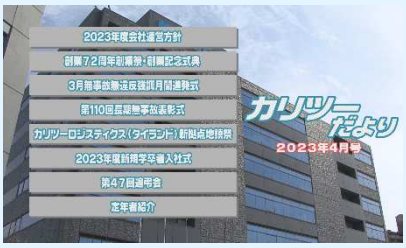
2022 年 4 月より、ながらスマホ防止アプリを試験的に導入しています。
従来より、乗務中のながらスマホを防止するため、運転中は携帯電話を指定の袋に入れていました。
さらに安全を強化するため、カリツーオリジナルアプリを開発・導入し、既存ルールに違反した場合、警告及び検知できる仕組みを構築しました。

項目	内容
スマホ周辺状態	事前に袋の中にビーコンを入れる 既存のルール通り、運転中スマホを袋へ入れる
異常検知方法	運転中状態をスマホが認識、ビーコンから離れ電波を受信しない場合、使用している状態と判断して検知
警告通知方法	異常を検知後、登録したアドレスへメール報告

イメージ図

■教育 DVD の展開

カリツーだより



社員への教育材料として、DVD「SD 情報（セーフティ・ドライブ安全運転）」と「カリツーだより」を自社内スタジオで編集、展開しています。2022 年度は「フォークリフト操作 KYT」、「コメンタリー運転の実践」等について展開しました。

リフト作業時やトラック運転時の危険感受性を高めるため、ビデオを活用して訓練することができました。

カリツーだよりでは、会社行事やトピックスを音声読み上げソフトのナレーションを使用して、タイムリーにビデオ化し配信しています。

■競技会への出場

当社では、専門知識の習得、運転技能及び点検技術の研鑽、交通安全に関する意識の向上を図ることを目的として、競技会へ積極的に参加しています。

開催日	競技会名	参加人数	入賞者（★愛知県代表として全国大会に出場）
6/10	カリツー・カリツー協力会共催 ドラコン・フォークリフト合同大会	95 名	–
6/18	第 21 回愛知県トラック協会 西三支部刈谷部会 フォークリフト運転競技会	2 名	優勝：東刈谷営業所　岡田選手
6/25	第 43 回愛知県フォークリフト 運転競技大会	3 名	2 位：東刈谷営業所　福岡選手
			5 位：東刈谷営業所　岡田選手
9/3･4	第 54 回愛知県トラック協会 トラックドライバーコンテスト	6 名	中型部門優勝：刈谷北営業所　坪中選手★
			大型部門 2 位：岡崎営業所　遠藤選手
			トレーラー部門優勝：安全品質管理部　松井選手
10/22･23	第 54 回全国トラック協会 トラックドライバーコンテスト	1 名	中型部門 2 位： 国土交通大臣表彰　刈谷北営業所　坪中選手
12/10	第 11 回省エネ走行競技会	2 名	中型・準中型 合同部門 2 位：　岡崎営業所　坂井選手

ドラコン・フォークリフト合同大会

フォークリフト運転競技大会

全国トラックドライバーコンテスト

■職場環境の整備

社員が安全に働ける職場環境の整備へ向け、各事業所に安全衛生委員会を設置し、定期的に職場を巡視しています。
委員会では、各職場での安全衛生に対する意見を取り上げ、労働災害防止対策の改善を行っています。
また、災害発生時には、臨時委員会を開催し、対策改善提案・対策のフォローを行っています。

疲労軽減マット

□安全衛生推進委員の装着品統一

くからでもひと目で推進委員を識別できるように、安全ベスト・バッチ・帽子の色をオレンジ系に統一しています。
推進委員の自己意識向上と、全社員への啓発活動の効果が高まりました。

フォークリフトの足元照明

□疲労軽減マットの導入

作業時の立ち仕事の疲労軽減のために、疲労軽減マット導入しています。足腰の負担が減り、腰痛予防に役立っています。

□フォークリフトの足元照明

労災事故防止のため、フォークリフトの足元を照らす LED 照明を取り付けました。
降車時の足元を明るく照らし、転倒防止に役立っています。

安全掲示板

□安全掲示板の設置

各拠点に安全掲示板を設置しています。
無災害継続日数を「見える化」することで、社員への事故防止に対する意識付けを行っています。

安全の門

□安全の門

一部の事業所や倉庫の出入口に、安全の門を設置しました。
安全の門をくぐることで、意識の切換えを行ない、安全第一で作業に取組んでいます。

□労働災害の分析・水平展開

労働災害防止のため、発生した労働災害については、要因分析と発生原因の特定を行い、再発防止対策、是正処置を実施しています。
また、一連の労働災害情報をデータベースとして蓄積するとともに、水平展開をするなど社内で共有しています。

ホワイト物流推進運動への参加

国土交通省・経済産業省・農林水産省が進めるホワイト物流推進運動の趣旨に賛同し、自主行動宣言を提出しています。

この運動は、トラック輸送の生産性の向上・物流の効率化と、女性や 60 代以上の運転者等も働きやすいより「ホワイト」な労働環境の実現を目指した運動です。

社会的な共通課題の解決に向けて、関係取引先やパートナーとともに、物流の生産性と効率化を追及し、多様な人材が活躍できるよりホワイトな労働環境の実現を目指しています。

ホワイト物流推進運動

一つ星認証マーク

働きやすい職場認証制度への参加

国土交通省・厚生労働省が進める働きやすい職場認証制度の一つ星認証を取得し、二つ星の取得に向けて取組んでいます。

この制度は、自動車運送事業者の運転者の労働条件や労働環境を第三者機関が評価・認証する制度です。

職場環境改善に向けた各事業者の取組みを「見える化」することで、求職者のイメージ刷新を図り、求職者の運転者への就職を促進する職場環境を整備し、社員にとって働きやすい職場を作ります。

多様な人材が働きやすい職場づくり

安全・品質向上の取組みの一環として、働きやすい職場づくりに取組んでいます。

2023 年 3 月より、一部のトラックへ荷台への昇降時の転落防止のため、手すりと足掛けを開発し取付けました。昇降時の安全対策と、足腰への負担軽減になりました。

また、西尾東物流センターでは AGV（無人搬送車）とハンディハンドを導入しており、運搬作業時の負担を減らすことができました。

今後も多様な人材が働きやすい職場を目指していきます。

トラック荷台の手すり

トラック荷台の足掛け

西尾東物流センター　AGV

②目標と結果

■運輸安全目標と結果

項目	2022 年度目標	2022 年度結果	2023 年度目標
重大事故（※1）	0 件	1 件	0 件
輸送の安全に関する投資額	227 百万円	421 百万円	221 百万円

■交通事故抑止目標と結果

項目	2022 年度目標	2022 年度結果	2023 年度目標
自責交通事故（※2）	2 件以下	9 件	2 件以下

■製品事故等抑止目標と結果

項目	2022 年度目標	2022 年度結果	2023 年度目標
製品事故	45 件以下	51 件	43 件以下

■労働災害抑止目標と結果

項目	2022 年度目標	2022 年度結果	2023 年度目標
重大労働災害（※3）	0 件	0 件	0 件
重大労働災害以外（※4）	1 件以下	6 件	0 件以下

※1 国土交通省自動車事故報告規則に定める事故 ①転覆・転落・火災・踏切・死傷 ②危険物の飛散漏洩 ③健康障がい ④車両故障等
※2 過失割合 30%超の交通事故
※3 死亡災害・後遺障害・休業 6 ケ月以上
※4 休業 4 日以上 6 ヵ月未満

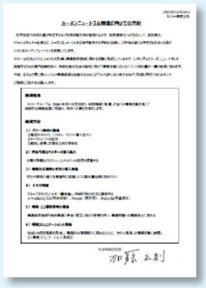
5．カーボンニュートラル社会に向けた取組み（環境活動）

（1）カーボンニュートラル推進組織

カーボンニュートラルの専門部署を設立しています。

持続可能な社会に向けて、CO_2 排出量の削減を目標にカーボンニュートラルを推進します。

カーボンニュートラル方針



（2）燃費向上に向けた取組み

①目標と結果

■燃費向上目標と結果

項目	2022 年度目標	2022 年度結果目標比	2023 年度目標
全社・全車格平均燃費	0.14%向上	98.84%	0.13%向上

②目標達成に向けた取組み

■省エネ運転の実践

省エネ運転は、燃料の節約やCO_2の排出抑制に繋がるだけでなく、穏やかな運転をすることになり、安全性の向上にもつながります。

■各部署の燃費管理責任者による活動

各部署の燃費向上活動の中心として、燃費管理責任者（全 24 名）を選び、自部署の燃費管理、乗務員への教育・指導を行い、目標達成に向け取組んでいます。

■高速型ディファレンシャルギアの装着（※1）

長距離用トラックの一部車型に高速型ディファレンシャルギアの装着を進めています。

燃料消費量を抑えることで燃費向上を図っています。

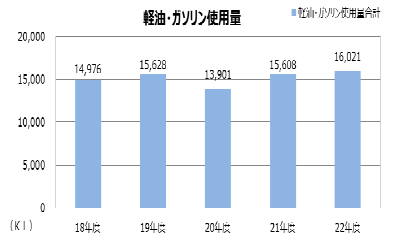
※1 高速走行時のエンジン回転数を下げて走行できる機器

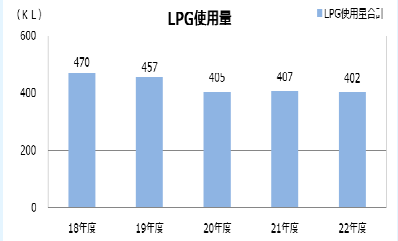
（３）エネルギー使用量と CO_2 排出量（※1）

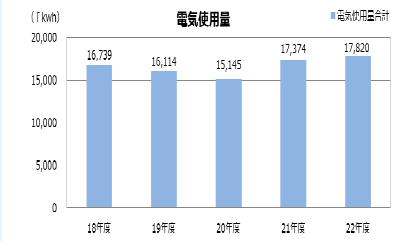
■エネルギー使用量

エネルギー源	単位	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
軽油	KL	14,701	15,375	13,686	15,376	15,784
ガソリン	KL	275	253	215	232	237
LPG（※2）	t	470	457	405	407	402
都市ガス	千㎥	130	118	135	123	108
電気	千 kwh	16,739	16,114	15,145	17,374	17,820

CO_2 排出量の推移



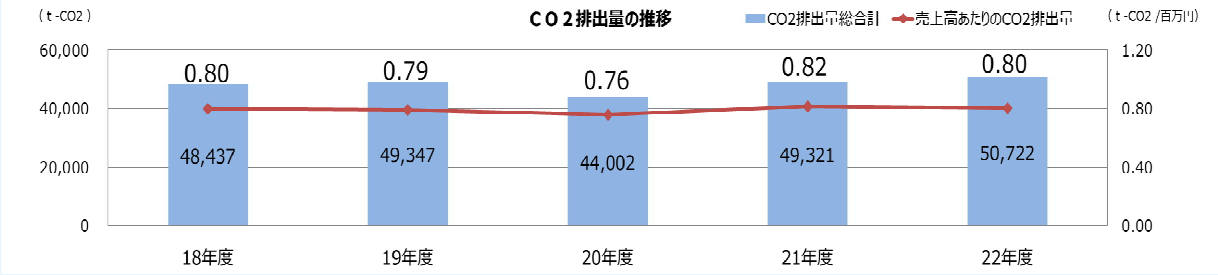




■CO_2 排出量（t-CO_2）

エネルギー源	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
軽油	38,002	39,744	35,378	39,747	40,801
ガソリン	638	587	499	539	551
LPG	1,409	1,370	1,215	1,221	1,206
都市ガス	292	265	303	276	242
電気	8,096	7,381	6,607	7,538	7,922
合計	48,437	49,347	44,002	49,321	50,722

CO_2 排出量の推移



※1　カリツー子会社 3 社の数値を含む

※2　LPG は 2021 年度よりカリツー子会社 3 社の数値を含む

（４）エネルギー使用量・CO_2 排出量削減に向けた取組み

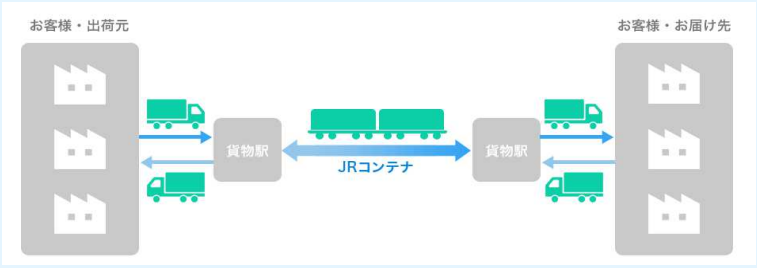
■モーダルシフトの推進

環境負荷低減のため、トラックを使用した貨物輸送を、環境負荷の小さい鉄道や船舶の利用へと転換するモーダルシフトを推進しています。

□JR コンテナ輸送

環境に優しい効率的な長距離輸送を実施しています。
輸送には主に 12ft コンテナを使用し、集荷・配達を行っています。
出荷元の最寄り駅までコンテナを積載したトラックで集荷し、駅から駅までは列車で輸送します。
お届け先の最寄り駅からはコンテナを積載したトラックで配達しますが、中継地で車両を載せ替え、集配先の乗り入れ条件に合わせた車種での対応も可能です。

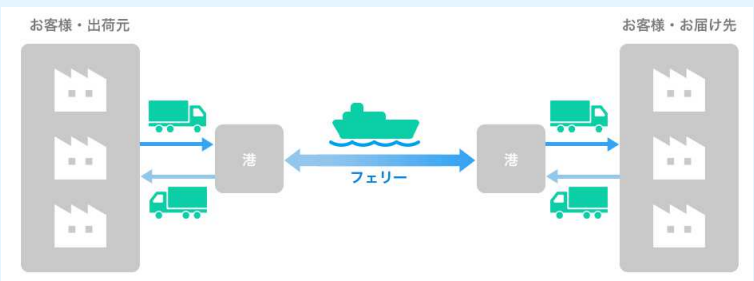
JR コンテナ輸送



□フェリー輸送

陸海一貫輸送システムの長距離輸送を実施しています。
長距離輸送の際は、トレーラーシャーシだけをフェリーに搭載させ無人で航走します。
到着地点で別のトラックが荷受けするという陸海一貫輸送システムを構築し、長距離輸送の効率化と、CO_2 削減に貢献する環境に優しい輸送を実現します。

フェリー輸送



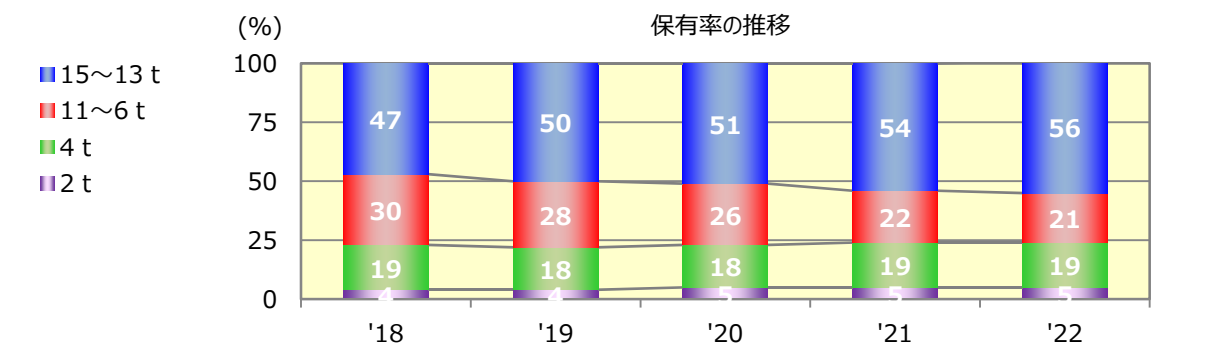
■低公害車の導入

環境負荷の低減を目的に、低公害車の導入を進め、保有率の向上に取組んでいます。

項目	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
低公害車の台数（※1）	1,041 台	1,104 台	1,096 台	1,030 台	1,056 台
低公害車以外の台数（※2）	30 台	29 台	30 台	31 台	28 台
低公害車の保有率	97.2%	97.4%	97.3%	97.1%	97.4%

■グリーン物流の推進

輸送能力の高い大型車両を積極的に導入し、混載輸送を促進することで、輸送回数の削減と輸送効率の向上に努めています。



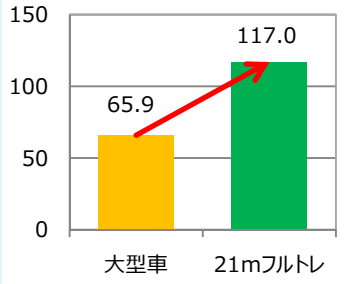
□21m フルトレーラーの導入

当社では、21m フルトレーラーを導入しています。

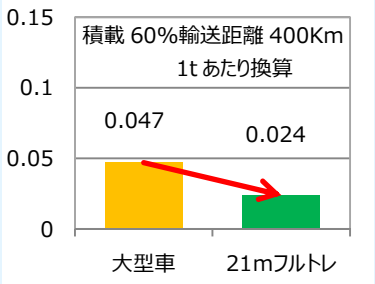
大型トラック 2 台相当分の荷量を積載可能なため、輸送回数の削減に繋がり、ドライバー不足への対応や CO_2排出量削減効果が期待できます。今後もフルトレーラーを活用した輸送を拡大していきます。

21m フルトレーラー

荷台容積（m^3）



CO_2 排出量（ t -CO_2）



※1 低公害車は営業車両のみ対象
大気汚染物質（窒素酸化物や一酸化炭素、二酸化炭素など）の排出が少なく、環境への負荷が少ない自動車
愛知県の「県民の生活環境の保全等に関する条例」に定める低公害車の定義を採用

※2 低公害車以外の車は自家用・軽・バス・一部の 2t 車

■グリーン購入・調達

環境への負荷をできるだけ少なくするために、グリーン購入（環境に配慮した製品の選択）を推進しています。「グリーン購入管理指示書」を制定し、物品調達にあたっては、その必要性をよく考えた上で、価格・機能・品質だけでなく、環境への負荷ができるだけ少ないものを選択して購入するよう努めています。

□クールハイブリッドトラック（15ｔ）の導入

電動駆動式の冷凍機を搭載したクールハイブリッドトラック（15ｔ）を導入しました。
燃費性能の向上により、大型トラックの課題である CO_2 排出量低減効果が期待されています。
また、ハイブリッドトラック（15ｔ）と圧縮天然ガストラックの導入も検討しています。

クールハイブリッドトラック（15ｔ）

ハイブリッドトラック（15ｔ）

圧縮天然ガストラック

燃料電池フォークリフト

□燃料電池（FC）の導入検討

カーボンニュートラル実現に貢献するため、フォークリフトへの燃料電池（FC）の導入を検討しています。温暖化防止に向けた CO_2 排出量の削減を目指し、トラックに限らずフォークリフトにおいても、水素活用の促進を目指した取組みを強化していきます。

ＭＩＲＡＩ・プリウスＰＨＶ

□燃料電池自動車

水素と酸素の化学反応により発電した電気でモーターを動かし、排気ガス等を排出しない車です。
2017 年 7 月、本社にＭＩＲＡＩを導入しています。

□プラグインハイブリッド車

コンセントから差込プラグを用いて直接バッテリーに充電できるハイブリッド車です。
本社内に充電設備を設置しプリウスＰＨＶを導入しています。

ｂＺ４ＸとＶ２Ｈ

□電気自動車

充電した電気でモーターを動かして走る車です。
岡崎物流センターにｉ-ＭｉＥＶと、2018 年 3 月、本社にリーフを導入しています。
2023 年 3 月、岡崎営業所と本社にｂＺ４Ｘを導入しました。
また、本社にＶ２Ｈ（充放電器）を設置したことで、停電時に電気自動車へ貯めた電気を建物で使用できるようになりました。

エコタイヤ

□低燃費タイヤ（エコタイヤ）

タイヤの転がり抵抗を低減する、エコタイヤを全車両に標準装備として導入し、低燃費による CO_2排出量の削減を見込んでいます。

リトレッドタイヤ

□再生タイヤ（リトレッドタイヤ）

走行により摩耗したトレッドゴム（路面と接するゴム部分）を新しく貼り替えて再利用する再生タイヤを使用しています。

使用後のタイヤを再利用することで、資源の有効利用によるCO_2排出量の削減が期待できます。

□リチウムイオンバッテリーの導入

フォークリフトリチウムイオンバッテリーを導入しました。

鉛バッテリーの 4 倍の速さで高速充電を行い、寿命が約 3 倍あります。充電効率も 20～25%向上することで、CO_2排出量の削減に繋がっています。

また補水作業が不要となるため、作業負担が減りました。

□リフトバッテリーの再利用

当社では、不具合バッテリーのセル入れ替えを実施して再利用しています。

再利用することで、資源の有効利用による CO_2排出量の削減効果に繋がっています。

□省エネディーゼルエンジンオイルの活用

当社では、省エネディーゼルエンジンオイルを活用しています。

燃費向上効果が高く、オイル寿命が長いため、コストと CO_2排出量の削減効果に繋がっています。

LED 照明の拡大

□省エネ型照明への転換を推進

従来型照明からLED照明へ切換えを推進しています。

倉庫内や駐車場などの光源を切換えました。

従来の蛍光灯と比較すると、消費電力量を約35%削減でき長寿命です。

高い省エネ効果が見込まれる機器への転換を積極的に進めることで、環境負荷低減に取組んでいます。

□太陽光発電

当社では、事業所の屋上等に太陽光発電パネルを設置し、発電をしています。
現在、15 拠点に設置し、再生可能エネルギーの導入拡大に貢献しています。

田原物流センター太陽光発電パネル

福岡県太陽光発電パネル

CO_2フリー電気の導入

地球にやさしく、未来をあかるく。

Green でんき

□CO_2フリー電気の導入

2022年7月、西尾東物流センターにCO_2フリー電気を導入しました。
CO_2フリー電気は、水力発電などの再エネ電源にて発電したCO_2を排出しない電気です。CO_2フリー電気を購入したことで、年間約880tCO_2排出量削減効果を見込んでいます。
今後も、環境に配慮した電気の利用を促進していきます。

（５）その他の環境保全活動

■油脂漏れ緊急対応訓練

油脂漏れ緊急対応訓練

車両等からの油脂（燃料・オイル等）漏れを未然に防ぐため、日常点検にて確認を徹底しています。
万一発生した場合に、適切かつ迅速に対応できるよう、あらかじめ手順を決め、毎年油脂漏れ緊急対応訓練を実施しています。
全車両に、油脂漏れ対応のための備品を常備しています。

■廃棄物に係わる取組み

日々の事業活動で排出される廃棄物の処理については、分別を徹底し、再生可能なものはリサイクルを進め、排出量の削減に取組んでいます。

□「リサイクル部品」の活用

再利用可能なデフレクター・リフト回転灯・前進チャイムなどを回収し、「リサイクル部品」として社内で活用しています。

□再資源化の推進

廃棄物として処理を委託していた廃プラスチック類（荷受品の固縛のために使用したラップ等）や、廃油・ダンボール・古紙などの分別活動により、リサイクルを推進しています。

（6）環境会計（※1）

当社では、環境会計を導入し、環境保全コスト（投資・費用）を管理することで、効果的な環境配慮の取組みを推進しています。（※2）

■環境保全コスト（※3）

（千円）

コストの分類		主な取組みの内容	投資額（※4）	費用額（※5）
事業エリア内	公害防止	低公害車（トラック）、浄化槽の維持管理費等	569,425	1,161,827
	地球環境保全	バッテリーリフト、エコタイヤ等	138,468	253,827
	資源循環	廃棄物処理費用、高性能オイル等	–	66,967
上・下流		排水補償金等	–	–
管理活動		ISO 審査、CSR レポート発行等	–	–
研究開発		物流改善スタッフ費用等	–	–
社会活動		業界団体会費、募金等	–	–
環境損傷対応		土壌汚染の修復費用等	–	–
合計			520,806	1,854,140

■環境保全効果（※6）

環境パフォーマンス指標（単位）	2021 年度
産業廃棄物排出量（t）	3,259
NOx 排出量（t）	34
PM 排出量（t）	0.9
水使用量（m^3）	49,889

※1 事業活動における環境保全コストとその効果を明確にし、可能な限り定量的に測定・伝達するしくみ

※2 データは 2021 年度現在。2022 年度は集計中

※3 環境負荷の発生の防止、抑制または回避、影響の除去、発生した被害のまたはこれらに資する取組みのための投資額及び費用額
データはカリツー分のみ

※4 対象期間における環境保全を目的とした支出額で、その効果が数期にわたって持続し、その期間に費用化されていくもの
（減価償却資産の当期取得額）

※5 環境保全を目的とした財・サービスの費消によって発生する費用または損失

※6 NOx・PM 排出量は条例に基づいて報告しているカリツー分のみ

6．社会貢献

（1）お客様との係わり

■海外事業の拡大

通関

□通関

貿易実務のエキスパートとして輸出入通関のみならず、関係書類の作成、税関検査立会い等、通関に関わる全ての業務を正確かつ迅速に提供します。

保税蔵置場

□保税蔵置場

電子デバイスセンターB 棟の一画において、保税蔵置場の許可を取得し、外国貨物と呼ばれる輸入許可前の貨物や、輸出許可を受けた貨物の保管を行っています。

輸出入に関係する法令に則り、顧客からお預かりした輸出入する貨物を、適切に保管・管理します。

海外ネットワーク

□海外ネットワーク

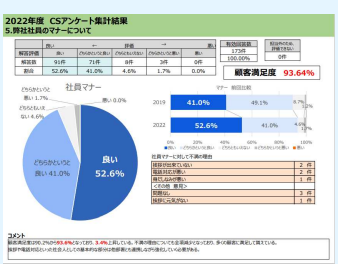
タイの工業団地近郊のチョンブリーに、倉庫業を担う KLT（カリツーロジスティクスタイランド）と輸送業を担う KTT（カリツートランスポートタイランド）があり、倉庫と輸送の複合サービスを提供しています。

□外航貨物海上保険の取扱い

2022 年 10 月より、輸出入関連業務のサービス向上のため、外航貨物海上保険の取扱業務を開始しています。国際間輸送される貨物を対象に、運送中のさまざまな損害を補償することで、お客様へ更なる安心を提供します。

■ＣＳアンケート（お客様満足度）調査結果について

ＣＳアンケート



お客様にはご負担をおかけしますが、2 年に 1 回ＣＳアンケートにて当社の評価をお願いしています。

ＣＳアンケートの結果は、全社で共有するとともに、抽出した重点課題を分析し、お客様満足度向上のための活動を行っています。

（２）社会との係わり

■災害時における対応

□物資集積拠点に関する協定書を締結

当社は西尾市と災害時における物資集積拠点に関する協定書を締結しています。

この協定は、西尾市内において地震その他の災害により被害が発生する場合に、当社の一部の施設を物資集積拠点として使用するものです。

□緊急時における軽油供給対応

全日本トラック協会に対して、震災等の災害発生時、優先的な軽油供給の要請があった場合、速やかに対応することを誓約しています（対象は一部の施設）。

■地域未来牽引企業（※1）

当社は経済産業省より、地域牽引企業の担い手、及び担い手の候補となる地域の中核企業として、地域未来牽引企業に選定されました。これからも事業を通じて、地域経済の発展に貢献していきます。

■交通安全立ち番

各事業所では、交通安全活動の推進に向け独自に、または地域や同業他社と連携して、定期的に交通安全の立ち番や交通安全パトロールを行っています。

■職場体験の受入

職場体験

毎年、電子デバイスセンターなど一部の事業所において、高校生・大学生を対象とした「職場体験」に協力しています。

倉庫内の在庫管理・入庫作業や検品作業などを体験して、物流業への理解を深めて頂きました。職場体験の際は、新型コロナウイルスの感染防止に配慮して、ソーシャルディスタンスの実施、マスクの着用やアルコール消毒などの対策を徹底しました。

■企業訪問の受入れ

職場体験

2022 年 10 月、安城南高等学校の１年生（１クラス）による企業訪問を受入れました。これは高校における総合学習の授業の一環で、地元の企業について学ぶために行われたものです。

企業訪問では、当社の会社概要について説明し、西尾東物流センター倉庫の職場環境を見学しました。また、西尾営業所にて大型トラックの乗車体験を行い、トラックの特性について体感して頂きました。

今後も積極的な受入れを行いたいと考えています。

※1　地域の特性を生かして高い付加価値を創出し、地域の事業者等に対する経済的波及効果を及ぼすことにより地域の経済成長を力強く牽引する事業を更に積極的に展開すること、または、今後取組むことが期待される企業

■支援活動・寄託等

小学校へベルマーク寄付

児童養護施設への寄贈

子ども食堂への寄付

オイスカへの寄付

セカンドハーベスト名古屋への寄付

□ベルマーク寄付

2013 年よりベルマークの寄付を行っています。
これまで愛知県の他に、事業所を置く広島県東広島市と福岡県宮若市等の25の小学校等とベルマーク財団、オイスカへ計214,000点を寄付しました。今後もベルマーク寄贈を通して、地域社会貢献活動を行っていきます。

□児童養護施設への寄贈

2022 年 12 月 23 日、安城市の社会福祉法人聖清会児童養護施設「なかよしこよし」と、碧南市の社会福祉法人長寿会児童養護施設「オリーブ」に、ギフトカードとお菓子詰め合わせをクリスマスプレゼントとして寄贈しました。
今回は、刈通オートテクノ殿と日豊高速運輸殿にもご協賛いただきました。新型コロナウイルスが拡大する中、子ども達が元気で明るい笑顔になれるよう、今後も、活動を継続して行っていきます。

□子ども食堂への寄付

2022 年より子ども食堂へ寄付を行っています。
子ども食堂とは、子どもや地域の人に、無料または低額で食事を提供する活動です。
新型コロナウイルスの影響で、支援を必要とされている方が増えており、少しでも協力したいと考え寄付を行いました。
今後も、活動を継続して行っていきます。

□植樹活動や農業支援への寄付

毎年環境保全活動の一環として、公益財団法人オイスカに寄付を行っています。
オイスカは、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開する国際 NGO です。
今後も寄付を通して、植林活動や農業支援に協力していきます。

□セカンドハーベスト名古屋への寄付

SDGs の取組みの一環として、「セカンドハーベスト名古屋」へ寄付を行いました。
防災備蓄品非常食の入替えを実施する際に、賞味期限の残った食品（アルファ米・缶詰など）を回収し寄付する活動です。
今後も、活動を継続して行っていきます。

ウクライナ人道支援

ウクライナ人道支援

2022 年 4 月、戦禍にあるウクライナの方々への救援活動資金の一部として、日本赤十字社愛知県支部へ寄付金目録を贈呈しました。また、2022 年 6 月には、避難を余儀なくされたウクライナ家族を支援する目的で、当社 CLC70 が家財運搬作業の援助協力を行いました。

一日も早くウクライナならびに周辺国の皆様に平穏な日々が戻られることを願っています。

トルコ・シリア地震への寄付

トルコ・シリア地震への寄付

2023 年 3 月 2 月 6 日にトルコ南部で発生した大地震の救援金として、日本赤十字社愛知県支部へ寄付金目録を贈呈しました。

発災から 2 か月ほどが経過しましたが、現地では未だにガレキの山が残った状況で多くの方が避難生活を強いられています。

被災地の一日も早い復興を願い寄付します。

日本においても、近い将来、南海トラフ地震の発生を警戒する声が上がっており、会社での防災取組みを継続していきます。

SDGs 取組みの一例

当社は SDGs の取組みに賛同し、様々な活動を行っています。下記はその一例です。

SDGs 取組みの一例

項目
日本赤十字社寄付機能付自動販売機の設置
ホンデリングプロジェクト
ベルマーク/書き損じハガキの回収
エコキャップ寄付
【環境省】Fun To Share "COOL CHOICE" の賛同
節水エコバルブ設置
市原稲荷神社サイネージ付案内表示板への協賛

□協賛・賛助会員・寄付

当社は社会貢献などの事業に賛同し、協賛を行っています。下記はその一例です。

分野	団体名等
教育支援	朝日小学生新聞（朝日写真ニュース社）
社会福祉	特定非営利活動法人安城まちの学校　、ＮＰＯ法人パンドラの会
	更生保護法人愛知県更生保護協会
	特定非営利活動法人アジア車いす交流センター
	公益社団法人被害者サポートセンターあいち
	セカンドハーベスト名古屋
国際交流	公益財団法人オイスカ
人道支援	日本赤十字社　ウクライナ人道危機救援金
芸術	名古屋フィルハーモニー交響楽団、安城市交響楽団
スポーツ	三河ベイフットボールクラブ株式会社、三菱自動車水島ＦＣ
伝統文化	安城七夕まつり協賛会、安城三河万歳後援会

■社外からの表彰等

2022 年度における、社外からの表彰実績等の一部は下記の通りです。

授賞機関名	表彰名	受賞者数
中部運輸局長	優良運転者表彰	1 名
愛知県高速道路交通安全協議会長	優良運転者表彰	1 名
公益社団法人全日本トラック協会	優秀運転者顕章　金十字章	6 名
	優秀運転者顕章　銀十字章	4 名
一般社団法人愛知県トラック協会 刈谷部会	優良運転者表彰　30 年	1 名
	優良運転者表彰　10 年	1 名
	優良運転者表彰　5 年	1 名
一般社団法人愛知県トラック協会 安城部会	優良運行管理者表彰	1 名
	優良運転者表彰　25 年	1 名
	優良運転者表彰　20 年	1 名
	優良運転者表彰　10 年	1 名
	優良運転者表彰　5 年	1 名
中部交通共済協同組合	優良運行管理者表彰	1 名
	優良運転者表彰	1 名
合計		22 名

（３）事業継続計画（ＢＣＰ）等に関する取組み（※1）

事業継続を困難とする地震・台風・水害・感染症等に備え、人命・健康を最優先としたＢＣＰの策定に取組んでいます。

防災対応力の向上を目的として、防災訓練や大規模地震対応ガイドの展開等、様々な取組みを進めています。

■事前対策

□防災マニュアルの制定

南海トラフ巨大地震を想定した、大規模地震対応ガイドを制定しています。

□防災対策用品の整備

災害発生時に備え、各事業所に防災対策用品を確保しています。

定期的に点検を行い、非常時に使用できるよう維持管理をしています。

□倉庫の震災対策

倉庫の震災対策として、製品の転倒・落下防止対策を進めて、安全面の向上に努めています。

具体的な取組みとして、スライド扉・側面ネットの設置、ストッパーや連結パイプの取付け等を実施しています。

□水害対策

豪雨や台風による水害対策の強化のため、全事業所に土のう袋と砂袋を配備しています。

土のう袋の使用方法と手順について資料を展開し、模擬訓練などで事前準備することで有事に備えています。

□防火点検の徹底

漏電などによる防火対策のため、各事業所で日常点検表を活用した日次点検と巡回点検を行っています。

事業所や倉庫等、施設からの火災発生予防に向けた取組みを徹底しています。

□サイバーセキュリティ対策

サイバーセキュリティ対策の一環として「情報セキュリティ教育」を実施しています。

適切な情報資産の取扱や、コンピュータウイルス感染防止や感染時の対処等を、パソコンを使用する全社員に対し教育しています。

また、定期的にウイルスメール訓練を行い、決められた対応ができるか確認しています。

□情報システムの対策状況

事業活動の継続に情報システムの維持は欠かせません。

当社では、自家発電機、無停電・定電圧装置、本社サーバーを免震プレート上に設置、データセンターを活用したデータバックアップ対策を実施し、震災等に備えています。

今後も最新ＩＴを研究し、オールカリツーで、より一層の BCP 対策のレベルアップを進めて行きます。

※1　企業が自然災害・大火災・テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合に早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法・手段などを取り決めておく計画

オーバースライダー

□オーバースライダーの導入

停電発生時に設備を稼動できるように、倉庫の出入口にオーバースライダーを導入しました。
オーバースライダーは、天井のレールの上をスライドして収納するため、シャッターよりも開閉速度が速く、静かです。
手動で簡単に開閉できるため、停電時でも使用することができます。

非常用発電機

□非常用発電機の増設

BCP 対策強化の一環として、大型の非常用発電機を増設しました。
予期せぬ事故や災害などの緊急事態に備えた電力を確保することで、事業の継続に努めています。

非常用電源装置

□バッテリーフォークリフト非常用電源装置の導入

複数の事業所に、バッテリー式フォークリフトを使用した非常用電源装置を導入しています。
停電発生時にフォークリフトと機器を接続し、非常用電源として活用できます。

□全社一斉防災訓練

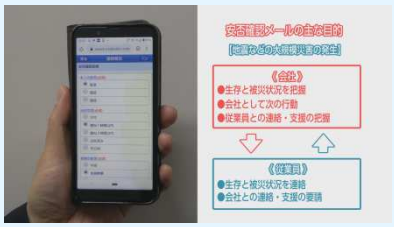
当社では、災害対策組織を編成し毎年定期的に訓練を行うことで、万一の災害に備えています。
2022 年 9 月 22 日、カリツー全社で、地震の発生を想定した一斉防災訓練を実施しました。
訓練では、新型コロナウイルスの感染防止に配慮して社員参加の避難訓練は中止し、緊急地震速報装置のテスト放送訓練、災害時災害対策メール BOX を活用したメール送信訓練、管理者による衛星電話や IP トランシーバーを使用した災害状況報告訓練が行なわれました。
定期的に防災訓練を行なうことで、より良い防災体制を築いていきます。

緊急地震速報装置テスト放送訓練

メール送信訓練

災害状況報告訓練

安否確認システム



安否確認システムと安否確認訓練の実施

企業の危機管理の一環として、災害時における社員と家族の安否を確認するために「セコム安否確認システム」を運用しています。
災害時、全社員の安否確認を確実に行うため、各四半期末に繰り返し訓練を実施しています。

車両動態管理システム

車両動態管理システムの運用

「セコム安否確認システム」と合わせ、災害発生時に車両と乗務員の位置情報を即座に管理者が把握できるよう「車両動態管理システム」を運用しています。

COVID-19（新型コロナウイルス）感染対策

2020 年 1 月より世界各地で感染者が拡大している新型コロナウイルスに対し、当社としても、感染拡大の防止及び事業継続（BCP）の観点から、各種感染拡大防止対策を実施しています。

対策会議の開催

関係部署と経営層を交えた対策会議を発足し、会社の新型コロナウイルス対策に対する方向性と指針及び各種施策を決定し、対応しています。

予防活動の徹底

感染拡大防止のため、社員に対し、日頃からの予防対応への啓発を行い、全社をあげて予防対策に取組んでいます。
対策として、フォークリフト・トラックにタオルと消毒液を設置、全部署への衝立の設置、3 密を避けるため距離を置いた休憩所、消毒付きの検温器の設置、定期的な換気など、飛沫感染への予防措置を取りました。
また、より精度の高い抗原検査キットを導入し配備しています。
WEB 会議や本社業務の在宅勤務を積極的に実施しました。

発熱モニターを設置

エレベーター内と前に足型シール表示

消毒付きの検温器の設置

（４）社員との係わり

■人材育成

□職員の教育・研修制度

社員の能力向上のため、各種教育・研修を体系的に行っています。

新入社員研修

社内研修

□現業員物流改善研修

現場の第一線監督者（ブロック長対象）を主体とした現業員物流改善研修を実施しています。
現場に於ける安全・品質・生産性の向上のため、物流管理部が核となり改善を継続的に推進できる人材の育成を目的として、１ヶ月に亘り座学と現場実習を実施しています。
座学では TPS（トヨタ生産方式）の考え方を基とした習得、現場実習では実際に活動している「現場からの学び」を題材とし、現場に寄り添った教育により実務習得を実践しています。

□ハラスメント防止研修

2022 年 9 月 22 日、管理職を対象に「職場でのハラスメント防止に向けて」のオンライン研修を開催しました。ハラスメント行為に対しどのように関わるか、管理職としての責任と役割について学びました。
今後も、ハラスメントの無いより良い職場づくりを目指していきます。

□取得資格

特定の資格取得・受講に対して、社員の申請に基づき一定の補助を行っています。下記はその一例です。

内容
運行管理者・通関士・国内旅行業務取扱管理者・衛生管理者（第一種）・安全管理者・
防火管理者（甲種）・危険物取扱者（乙種第４類）・はい作業主任者・積卸し作業指揮者・
床上操作式クレーン運転・自動車整備士・物流経営士（物流大学校）・物流技術管理士

TOEIC 社内テスト

□TOEIC 受験

社内で語学能力の向上とグローバルな人材育成のため、TOEIC の受験を推進しています。
会社の取組みとして、定期的にテストを社内で実施しています。
今後も社員がスキルアップできるよう、支援していきます。

■各種制度

社員が仕事と生活を両立できる働きやすい職場づくりに努めています。
「育児休業制度」や「介護休業制度」など、小さな子供や介護の必要な家族がいる社員を対象に、様々な制度を定め推進しています。新型コロナウイルス感染拡大による緊急宣言の際には、積極的に在宅勤務や時差出勤を活用して対応しました。今後も多様な働き方を実現できるよう、制度の充実に取組んでいきます。

区分	制度	内容
育児	育児休業	最大子供が 2 歳まで休業できる
	所定外労働の免除・勤務時間の短縮	子供が小学校就学前まで短縮できる
	時間外労働・深夜業の制限	子供が小学校就学前まで制限できる
介護	介護休業	原則として通算 93 日まで休業できる
	勤務時間の短縮	3 年間に 2 回まで短縮できる
両立支援	在宅勤務	自宅を就業場所として働くことができる
	時差出勤	通勤・退勤時刻を前後にずらすことができる
	各種休暇	介護・子供の看護休暇が取れる

□育児休業を取得しやすい職場づくり

社員が性別を問わず、育児休業を取得しやすい環境にするため、ポスターを展開し制度を周知しています。
対象者には、育児休業取得の意向確認書を使用して確認を行っています。

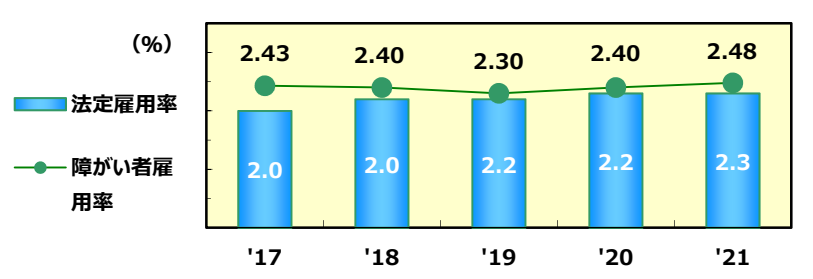
□ハラスメント相談窓口

当社で働く全ての社員が働きやすい環境をつくるため、ハラスメントのない職場づくりを進めています。
職場におけるハラスメント全般について、相談窓口を設置し対応しています。

■障がい者雇用の推進

当社では、積極的に障がい者の採用活動を行い、雇用率の向上に取組んでいます。
今後も引き続き、各特別支援学校への訪問、ハローワーク主催の面接会への参加等、障がい者の採用活動を積極的に展開していきます。各職場の理解を深めるため、障がいについてまとめた冊子の配付などを行っています。

障がい者雇用率の推移（※1）



冊子の配付

※1 データは 2021 年度現在。2022 年度は集計中

■健康管理の充実

毎年全社員を対象とした定期健康診断を実施しています。診断結果に基づく２次検診受診のフォローを行い、健康起因による事故の防止と、社員の心と体の健康管理に努めています。

□睡眠時無呼吸症候群（SAS）検査の実施（※1）

睡眠時無呼吸症候群の影響による事故防止対策として、簡易検査装置であるスクリーニング検査機器を自社購入し、定期的に全乗務員に検査を実施しています。

（５）業務改善提案の促進目標

①目標と結果

■業務改善提案の促進目標と結果

項目	2022 年度目標	2022 年度結果	2023 年度目標
業務改善提案件数	4,688 件	5,005 件	4,792 件

②目標達成に向けた取組み

職場環境の安全性や物流効率の向上、環境負荷低減等を目的とした業務改善提案を、全社員が提出できるようにシステムで管理しています。提出件数は四半期ごとに集計し、各部署への働きかけを行っています。

■提案グランプリ賞

提案者個人の提案評価点を累計した通算点数に応じ、提案グランプリ賞を授与しています。

項目	ダイヤモンド賞	金　賞	銀　賞	銅　賞	合　計
2022 年度受賞者数	9 名	19 名	35 名	50 名	113 名
受賞者数累計	43 名	132 名	274 名	627 名	1,076 名

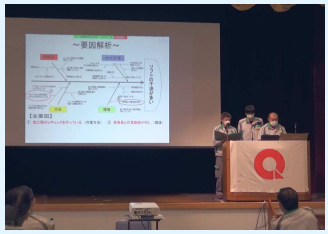
■ＱＣサークル活動の推進

活力ある職場づくりに向けて、ＱＣサークル活動の活性化を推進しています。
小集団で職場の問題解決に半年間取組み、業務の最適化・効率化を図りました。
2022 年 12 月 10 日に第 10 回ＱＣサークル大会が開催され、代表の７チームによる発表の結果、豊田西物流センターが優勝しました。

表彰	部署
優勝	豊田西物流センター
２位	カリツー九州
３位	西尾東物流センター

優勝　豊田西物流センター

QC サークル大会



※1　睡眠中に無呼吸が断続的に繰り返される病気。その結果、日中に眠くなる、集中力や活力に欠けるなどの状態が生じる

７．マネジメントシステム

■安全･品質･環境方針

□基本方針

１．我々は、安全の確保が事業経営の根幹であることを深く認識し全ての業務の安全性向上に努め、無事故、無災害を達成する。

２．我々は、常に新しい価値の創造に努め最高の品質、最高のサービスをもって業界ナンバーワンを目指す。

３．我々は、物流を中心とした全ての企業活動において、環境負荷をできるかぎり低減することで社会に貢献する。

□行動指針

１．安全の確保、顧客満足度の向上を図るため、また、地域及び地球の環境保全を推進するため、輸送事業、倉庫事業及びその他の関連事業において、次に掲げる事項を全社員が一丸となって取組む。

（１）労働災害の撲滅

（２）交通事故の撲滅

（３）製品事故等の撲滅

（４）省エネルギー及び省資源の推進

（５）廃棄物の削減及びリサイクルの推進

（６）グリーン調達の推進

２．上記の項目を展開するため、安全･品質･環境目的及び目標を設定し積極的に推進するとともに、定期的に見直しを行う。

３．事業活動及び環境に関する法令並びに当社が同意するその他の要求事項を順守する。

４．安全･品質･環境に関する内部監査を行い、必要な是正処置･予防処置を講じる。

５．安全の確保、顧客要求事項への適合及び環境問題を常に意識し汚染の予防及び安全･品質･環境マネジメントシステムの継続的改善を図る。

６．安全･品質･環境に関する費用支出及び投資を積極的かつ効率的に行うように努める。

７．安全･品質･環境に関する情報の連絡体制を確立し、社内において必要な情報を伝達、共有する。

８．安全･品質･環境に関する教育及び研修の具体的な計画を作成し、これを的確に実施する。

９．業務委託先の安全･品質･環境の向上に協力するように努める。

１０．この安全･品質･環境方針は、当社で働くすべての人に周知するとともに、一般に公表する。

■個人情報保護方針

１．個人情報の取得･利用･預託について

当社は適法かつ公正な手段によって、個人情報を取得致します。

当社は個人情報を取得の際に示した利用目的の適用範囲内で、業務の遂行上必要な限りにおいて、利用します。

２．個人情報の第三者提供について

当社は法令に定める場合を除き、個人情報を、事前に本人の同意を得ることなく、第三者に提供致しません。

３．個人情報の安全管理について

当社は個人情報の的確性を保ち、これを安全に管理致します。

４．個人情報に関する法令及び規範の順守

当社は、個人情報の取り扱いについて、個人情報保護法をはじめとして、関連する法令及びガイドラインを順守します。

５．個人情報の開示･訂正･利用停止･消去について

当社は、本人が自己の個人情報について、開示･訂正･利用停止･消去等を求める権利を有していることを確認し、これらの要求があった場合にはこれに応じます。

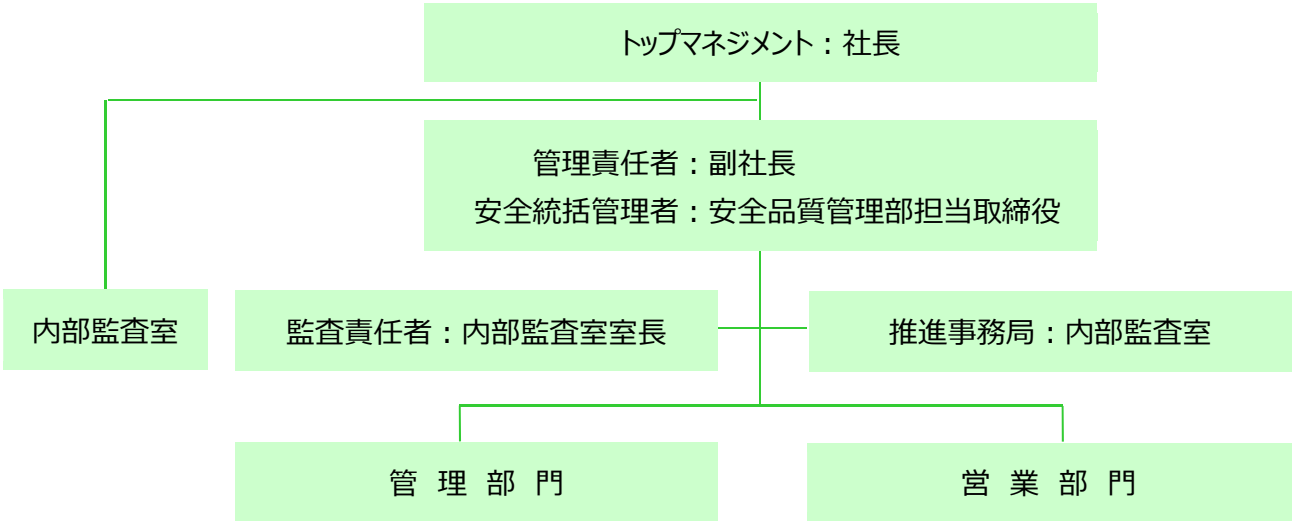
６．組織･体制

当社は、個人情報保護管理者を任命し、個人情報の適正な管理を実施します。

７．個人情報保護コンプライアンスプログラムの策定･実施･維持･改善

当社は個人情報保護を適切に維持するため、個人情報保護に関するコンプライアンスプログラムを策定し、運用するとともに、これを継続的に改善します。

（１）品質・環境・道路交通安全マネジメントシステム推進組織



（２）外部認証

■外部認証機関による ISO 審査

年 1 回、外部認証機関による、品質・環境・道路交通安全に関する ISO 審査を受けています。
2022 年 9 月、5 日間にわたり審査を受け、ISO9001・14001・39001（※1）の登録継続が承認されました。検出課題に対しては、是正処置・水平展開を行い、マネジメントシステムの維持・改善を実施しています。
新型コロナウイルスの感染防止に配慮して、WEB 会議を活用しました。永年登録特別表彰状を頂いています。

WEB 会議を活用した ISO 審査

表彰状

ISO 登録証

■ISO 認証登録状況

品質・環境・道路交通安全に関する ISO 認証を取得しています。

□ISO9001・ISO14001

2000 年から品質マネジメントシステムの ISO9001、環境マネジメントシステムの ISO14001 の認証登録が承認され、随時対象拠点を拡大して参りました。
2022 年度末現在、本社及び 39 の拠点にて登録継続の承認を受けています。

□ISO39001

2014 年から道路交通安全マネジメントシステムの ISO39001 の認証登録の承認を受けています。
2022 年度末現在、岡崎営業所及び 3 関連部門にて登録更新の承認を受けています。

※1 道路交通事故による死亡者と重傷者の撲滅を目的に、業種・規模を問わず、道路交通に関連するあらゆる組織が取組むべき要求事項を定めた道路交通安全マネジメントシステムの国際規格

■内部監査の実施

間接部門の内部監査

定期的に内部監査を実施し、マネジメントシステムの有効性を確認しています。
発見された問題に対しては是正処置を実施し、内部監査員が気づいた改善アイデアについても推奨事項として助言がなされ、マネジメントシステムのレベルアップにつなげています。

実施期間	内部監査員	被監査部署	指摘件数
2022 年 7～9 月	各営業部 部長・次長	70 部署	30 件

■安全性優良事業所として認定（Gマーク）

安全性優良事業所とは、荷主企業がより安全性の高いトラック運送事業者を選びやすくするために、全国貨物自動車運送適正化事業実施機関（全日本トラック協会）が厳しい評価をし、認定した事業所です。
当社では、車両を保有している 17 事業所が認定を受けています。

（３）コンプライアンス

コンプライアンスは CSR 経営の基礎であるとの認識を持ち、磐石なものとすべく取組んでいます。
特に、貨物自動車運送事業者として、公道を使用させて頂いているという意識を持ち、2024 年問題に備え運行時間へ制限等、関連法規の順守に努めています。

■法順守評価の実施

営業所の現地確認

毎年、関連法規の一覧を使用して、各部署でセルフチェックを実施しています。結果をもとに法務課による現地立会い評価を行い、是正状況の確認とフォローを行っています。
法順守評価を通して関連法規に関する情報を共有し、順法意識を高める教育の機会も兼ねています。

□社内教育資料の展開

毎月、重要法規やコンプライアンス関連の教育用資料を社内へ発信しています。
絵やマンガ等を活用し、親しみやすく、わかり易い資料づくりを行い、社内の法知識、コンプライアンス意識の向上に努めています。

国際物流サービスのご案内

陸路から空路、陸路から海路へ。

カリツー × 国際物流

カリツーの新しい物流サービス始まります。
お客様と海外ご依頼先を直接結ぶ、ノンストップサポートです。

国内トップクラスのサービスを誇るカリツー。
新たな物流ソリューションで、
変化するビジネスを支えます！

日本から世界へ、世界から日本へ。
一貫した物流サービスをご提供いたします。

〈サービスイメージ〉

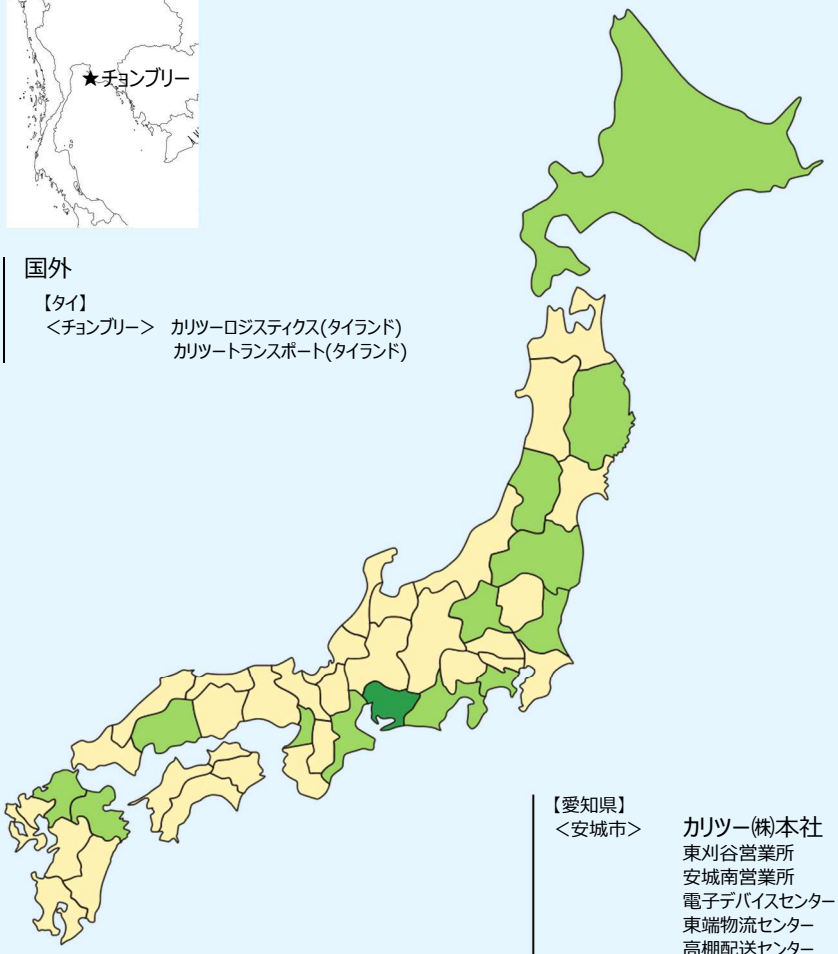
サービスメリット

■輸出入に必要な様々な作業・手配を一貫してお受けし、お客様の煩雑な業務を削減します。
■国内で培ったトラック輸送のノウハウと海上・航空輸送の最適な組み合わせで迅速にお荷物をお届けします。
■さらに海外現地法人※・代理店と連携した国際物流サービスを提供します。
※海外現地法人は 2018 年に設立予定（詳細は次ページにて）

営業拠点一覧

国外

【タイ】
<チョンブリー> カリツーロジスティクス(タイランド)
カリツートランスポート(タイランド)



国内

【北海道】	苫小牧営業所 カリツー北海道 本社営業所
【岩手県】	カリツー東日本 岩手金ケ崎物流センター
【山形県】	カリツー東日本 山形出張所
【福島県】	カリツー東日本 郡山本社
【茨城県】	茨城営業所
【群馬県】	群馬営業所
【神奈川県】	神奈川営業所
【静岡県】	静岡出張所
【三重県】	三重いなべ営業所
【大阪府】	大阪営業所
【広島県】	広島海田物流センター 広島志和営業所 広島西条営業所
【福岡県】	カリツー九州 北九州営業所 カリツー九州 福岡営業所 カリツー九州 宮田物流センター カリツー九州 苅田営業所
【大分県】	カリツー九州 大分中津営業所

【愛知県】

<安城市>	カリツー㈱本社 東刈谷営業所 安城南営業所 電子デバイスセンター 東端物流センター 高棚配送センター カスタマーロジセンター70 安全教育研修センター	<豊田市>	岡崎物流センター
		<みよし市>	豊田西物流センター みよし物流センター
		<岡崎市>	岡崎営業所 岡崎東営業所 ロジテム岡崎
<刈谷市>	刈谷北営業所 刈谷中央物流センター 刈谷物流センター 刈谷西物流センター 小垣江物流センター ロジテム小垣江	<西尾市>	西尾東物流センター 西尾営業所 西尾北物流センター
		<豊橋市>	豊橋営業所
		<田原市>	田原物流センター
<知多郡>	衣浦物流センター	<海部郡>	名港営業所
<名古屋市>	名古屋オフィス		

カリツー株式会社

お問合せ先：経営企画管理部　企画管理室
〒446-8540　愛知県安城市三河安城町一丁目４番地４
TEL（0566）73-5619　FAX（0566）73-5627
URL：http://www.karitsu.co.jp/

2023 年 6 月発行